

鹿島・四季の楽しみ

春

神社境内の桜がきれいに咲きそろいます。島で波音を聞きながら、お花見はいかがですか。桜の次は藤、そしてまばゆいばかりの新緑と、春の息吹が満喫できます。

春の行事:

北条鹿島まつり(毎年5月3日・4日)
伝統の「權練り(かいねり)踊り」など、勇壮な海の男たちによる海上絵巻がくりひろげられるほか、年に一度の「大注連縄(おおしめなわ)の張り替え」も行われます。



夏

海水浴に適した砂浜があります。海開き中はシャワー室も使えます。(潮がひいた時にはカキの殻がたくさん出てきます。素足で歩く際はご注意ください。) 松山出身芸人「友近」さんアナウンスによる周遊船も運航しています。



夏の行事: 風早海まつり(7月第4土曜日)

北条地区で行われるまつりです。見どころはまつりのフィナーレを飾る海上での花火です。鹿島に渡って、島から見るのも楽しいかも。

秋

ご存知ですか?鹿島は島のあちこちに句碑がある「俳句の島」です。また、かしまーる(北条鹿島博物館)には松山市の観光俳句ポストも設置されています。秋の鹿島を散策しながら一句詠んで、投句してみるのも風流ですね。

秋の行事:ワンダーランド河野氏まつり(10月中~下旬)

河野氏の歴史をたどる様々なイベントの一つとして、鹿島では鹿の角を切り、神社に奉納する伝統行事「鹿の角切り」が行われます。



一年を通じて...



北側の防波堤や南側の防波堤などでは、釣り人の姿をよく見かけます。メバル、チヌ、アジ、グレ、イカ、ハマチなど、家族で楽しむ手軽な釣りから本格的な釣りまで楽しめます。

キャンプ・炊事をされる方へ

- 運び込む荷物の量により荷物料金がかかる場合がございます。ご了承ください。
- キャンプ用具、炊事用具などの貸出はございません。
- 炊事棟は自由にお使いいただけますが、火の元の始末は確実に行っていただきますよう、また、ゴミの分別・持ち帰りに御協力をお願いいたします。

アクセス

【北条・中須賀港・渡船待合所(駐車場)へ】
電車 JR予讃線「伊予北条駅」から徒歩約10分
バス 伊予鉄バス「北条鹿島前」より徒歩約5分
車(松山方面から)国道196号を経由して県道179号
湯山北条線を北条方面へ。約30~40分。
【渡船事務所(待合所・駐車場)から鹿島へ】
渡船で約3分。(20~30分間隔で運航しています。)



鹿島渡船料金

*車両は乗船できません。

- 個人料金
 - 大人 往復210円
 - 小学生 往復110円
 - 高齢者(65歳以上) 往復110円
- 団体料金(15名以上)3割引
 - 大人 往復150円
 - 小学生 往復80円
 - 障害者 5割引110円

鹿島渡船運航時刻表

	4月~10月		11月~3月	
	鹿島発	北条発	鹿島発	北条発
7時~17時	00 20 40	03 23 43	00 30	03 33
18時~20時	00 30	03 33	00 30	03 33
21時	00 30*	03* 33*	00	
22時	00*			

*は、7月中旬から8月31日のみ運航します。

鹿島渡船駐車場使用料金

*駐車場の開錠は6時30分です。

	駐車時間	駐車料金
一般	8時30分~22時まで	バス、自動車 510円
夜間	17時~翌8時30分まで	バス、自動車 570円

*自動車には渡船料1名分を含みます。

かしまーる(北条鹿島博物館)

開館時間 年中無休 8時30分~17時30分
常設展示室と休憩・キッズスペースのある多目的室があります。
多目的室を会議・句会等で使用する場合は1日2,000円。

お問い合わせは

鹿島渡船駐車場事務所(渡船待合所) ☎089-992-1375
かしまーる(北条鹿島博物館) ☎089-993-1026
松山市 観光・国際交流課 ☎089-948-6555

ほうじょうかしま

北条鹿島の

ご案内



鹿島は周囲1.5km、標高114mの小さな島です。昭和31年には国立公園となっており、「伊予の江ノ島」とも呼ばれています。

中世においては島全体が河野水軍の海城であり、また、島の各所に句碑があり観光俳句ポストも設置されているなど、歴史と文化に彩られた島です。

平成26年にリニューアルオープンした「かしまーる(北条鹿島博物館)」をはじめ、愛媛県指定の天然記念物「鹿島のシカ」もいます。

平成26年8月1日に「恋人の聖地サテライト」に認定され、展望台と周遊船にモニュメントが設置されました。

歴史と文化と緑の島・鹿島でのんびりしたひとときを過ごしてみませんか?

松山市 観光・国際交流課

鹿島 文学散歩&観光 案内図

(瀬戸内海国立公園)



山頂からの眺望



かしまーる(北条鹿島博物展示館)



伊予の二見
(大注連縄設置岩)

伊予の二見(夫婦岩)



県指定・天然記念物「鹿島のシカ」



北条鹿島まつり(櫓練り)



風早海まつり(花火大会)



鹿島文学碑散歩

- 1 神の石根の千仞や風薫る 凡草
 - 2 神威かつて斧入らしめず嶋茂る 雲月
 - 3 鹿島二題 鹿島二題
 - 4 妻恋の鹿や木の間の二十日月 壺天子
 - 5 舟野立ちの巖や薫風二千年 雲月
 - 6 かりぎしにすがる萩の命はも 風生
 - 7 枯野や昔行幸の水の音 極堂
 - 8 この嶋に起き来る潮や初日影 松岡凡草
 - 9 春立つや神うつそみのわたの潮 鬼子坊
- 岩ありて天つ日ありて海ありて 迷室
- 伊予の二見はかしまりけり 勇
- 浪風に瘦せゆく巖や石路の花 毛人
- しづかなる昂ぶり月の鯛跳ねし 草堂



恋人の聖地展望台モニュメント

裏山にひびく神鼓や青嵐 淡紅
夕焼に輝く波や伊予二見 壺中
鹿に開け潮の秋するそのことは 東洋城
腰折といふ名もをかし春の山 花叟

鹿島吟行 巖谷小波 昭45
俯し看るや藻掻く瀬戸の深みどり
潮映ゆる桶の若葉や鳥の雨
鹿の子の餌にな汚しそ甕

吉井勇 昭30
さすらひの歌ひわれもかしまりて
鹿島の社おろがみまつる
松風のおと聴きつ 酔ふほどに
鹿島は夜こなりけりしな
岩ありて天つ日ありて海ありて
伊予の二見はかしまりけり

高浜虚子句額
鹿島遊行三十年ぶりに
鹿を見ても恐ろしかり昔哉
鹿の舌秋草の上に赤く動く

大正六年十月十六日淡紅を東道として同行
十二人千切小鹿島辺を漕ぎめぐり釣を垂れ、
半日清遊をほしままにす 暮色蒼然として
雅筵を襲う時 執筆 高浜虚子



鹿島神社

河東碧梧桐再遊句額
夜になる灯の鹿島吹きめぐる風
鹿を呼ぶ頃の夕照り神風て 碧梧桐
夕涼島影落す潮葦 霽月

村上露月奉納句額 蒼海に生えて幾世の島の秋
日田亜浪句額 春野の声引汐の音もなく 昭45・9
月斗奉納句額 鹿を呼ぶ翁あはれめ冬茂り
俳通路記念句額 大14・3・18
来いよ来いよと鹿呼びくる島東風に
鹿笛を喉に藏して春淋し
春雁の影を瀧して鳥三四
鹿島絵額 八木彩霞筆
酒井照禅句額 御座船の軸に佇ちて春の風
尾崎迷堂句額 崖に仰ぐまことや神の石路の花
奉納句額 風早吟社五十周年記念献納 昭40・11・7
観月庵句会奉納句額 昭33・4
社前注連石 鞆の山
潜龍随時 海の幸あれ国春 霽月
遊雷応期 五風十雨満作護ふ民の秋 霽月
三由淡紅奉賛碑 昭55・6